



創業50周年を迎えました。

◇日精電機株式会社は、1958年(昭和33年)東京都目黒区でモーター生産を主体として稼働開始して、この10月で創業50周年を迎えました。

1964年(昭和39年)7月に現在の本社工場(当時は信州工場)を設立。その後、1974年(昭和49年)8月に本社を佐久に移転しました。現在までに日精グループとして、(株)千久水、(株)日精電気を設立しています。

そして、2000年(平成12年)2月からスタートした佐久商工会議所主体によるISO取得実践研究会への参加により、2001年(平成13年)6月、ISO14001を認証取得し現在に至っています。

これからも会社が益々発展するようにみなさん一致団結して頑張りましょう。

◇ISO14001の運用も2008年度の中盤を迎えています。先の5月26日～27日には審査機関による第5回サーベイランス審査が実施されました。結果は後述しますが、今回の審査から良い実施事項(取り組み)については「Good Point」がもらえるようになりました。組織としても、各部門での良い実施事項については表彰等を行いその功績を認める制度を設けてみてはどうでしょうかという提案もされました。

今後、上記表彰制度を検討するにしても、良い実績(取り組み)が審査機関によって認められていくことは我々が活動していく上でも糧となっていくことでしょう。

本号の内容

P	項数	項目
1	1	10～12月期に実施する事項
2	2	製品含有化学物質管理について その2
3	3	環境関連トピックス(主な環境ニュース)
4	4	2007年度 内部環境監査 総括
4	5	第5回 サーベイランス審査 総括
4	6	北京オリンピックと環境問題

印刷配布:A.S.B.C.M.D.Q.J.K.E.M.R.E.M.R.s.E.M 専CiKn.Na (15部)、ネット配信:G.To

日精電機ホームページURL

<http://www.nissei-motor.co.jp/>



ネジ花 (7月撮影:油井計雄氏)

【小型のラン科の多年草。別名:モジズリ(緞摺)】

1. 10～12月及び1月に実施する事項

- ・2008年度の活動は既にスタートしています。
下記日程を基準に実施していきましょう。

月	内容
9月	事務局定期フォロー 設備・工程の定期点検 緊急事態への準備及び対応訓練～10月 EMPのまとめ(2008年度 第二節:末日) 半期の目的・目標の評価
10月	日精電機(株)第51期スタート ISO14001News 通巻11号発行 事務局定期フォロー 設備・工程の月例点検 2008年第2回定期環境管理委員会
11月	事務局定期フォロー 設備・工程の月例点検
12月	事務局定期フォロー 設備・工程の月例点検 EMPのまとめ(2008年度 第三節:末日)
1月	仕事始め 事務局定期フォロー 設備・工程の月例点検 ISO14001News発行(新年号)

緊急事態への準備及び対応訓練の時期となりました。例年のことですが、検証したことによる記録はもちろんですが、手順書に不備等あれば見直しを実施するようにお願いします。
また、定期点検の時期も過ぎましたが、各種測定事項はもとより点検項目に沿った点検実施は行いましたか？

2. 製品含有化学物質管理 について (その2)

前号(10号)で、当社が指定する含有禁止物質について掲載しましたが、今回は含有を管理する化学物質を掲載します。

アンチモン及びその化合物	アスベスト類
ヒ素及びその化合物	アゾ化合物 ※4
ベリリウム及びその化合物	シアン化合物
ビスマス及びその化合物	オゾン層破壊物質 ※5
カドミウム及びその化合物	フタル酸エステル
クロム化合物 ※1	放射性物質
六価クロム化合物	ニッケル金属
コバルト及びその化合物	銅及びその化合物
鉛及びその化合物	金及びその化合物
水銀及びその化合物	パラジウム及びその化合物
ニッケル化合物 ※2	銀及びその化合物
有機スズ化合物	マグネシウム
セレン及びその化合物	無機燐化合物
テルル及びその化合物	有機燐化合物
タリウム及びその化合物	芳香族炭化水素
塩化パラフィン	ハロゲン化炭化水素類
PBB 類	エーテル/アセテール類
PBDE 類	ケトン類
ハロゲン系樹脂添加剤 ※3	窒素化合物
PCB 類	フルオロ酢酸化合物
ポリ塩化ナフタレン(塩素数が3以上)	ダイオキシン類
ポリ塩化ビニル	

※1: 六価クロム、金属クロムを除くクロム化合物

※2: 金属ニッケルを除くニッケル化合物

※3: 塩化パラフィン、PBB、PBDEを除くハロゲン系樹脂添加剤

※4: 特定アミンを形成するアゾ化合物

(特定アミンとは、EU 指令 76/769/EEC、第 19 次修正指令に出典されているアミン化合物をいう)

※5: モントリオール議定書対象物質

現在、製品に含有される化学物質で管理対象となっているのは 43 物質となっています。

今後も当社とおつきあいのある客先から要請がある都度、上記掲載物質以外にも管理する化学物質が増えていく可能性もあり、益々化学物質の取り扱いが難しくなっていくと考えます。

当社で化学物質等の取り扱いについて記述がある手順書類

文書番号	文書名称
EMS-00C-002	洗浄工程管理手順書
EMS-00C-003	有機溶剤使用及び保管管理手順書
EMS-00C-009	指定化学物質を含む物品の管理手順書
EMS-00C-010	MSDS 運用手順書
EMS-00C-015	環境影響化学物質管理手順書
EMS-00C-016	製品含有化学物質管理評価シート運用手順書
EMS-30C-001	協力工場環境管理手順書
EMS-30C-009	部品発注管理手順書
EMS-50C-003	開発、設計業務手順書



3. 環境関連トピックス（主な環境ニュース）

①長野県森林づくり県民税（2008年4月1日導入）

長野県では、「長野県森林づくり県民税」と称して平成20年度から平成24年度分まで、個人県民税均等割が500円超過されることとなりました。また、法人に対しては現行の均等割額の5%相当額が超過されます。

目的は、森林の多面的多機能を持続的に発揮させ、健全な姿で次の世代に引き継ぐためのそれらに要する財源を確保するためとしています。（長野県庁HPより抜粋）

ただし、県民全員に納税義務があるわけではなく「県民税均等割」を納めている者（県民の約半数）が対象となるようです。

②“北海道洞爺湖サミット”開催される

第34回先進国首脳会議（G8）が北海道虻田郡洞爺湖町のザ・ウィンザーホテル洞爺を会場にして、7月7日（月）～9日（水）にかけて開催されました。

首脳会議としての注目は、1997年に京都議定書で設定された目標をいかに達成すべきかを討議すること。しかし、アメリカがサミット開幕前から長期目標の設定に慎重姿勢を繰り返し示していたため、サミットでの合意がなされるのが危ぶまれたが、結局、2050年に世界の温室効果ガスを半減させるとする数値目標を共有することで合意がなされた。

③ガソリン価格高騰で“ハイブリッド車”売れ行き好調！？

このところに関心はガソリン価格。一時期は1ℓ 180円台という頃もあり、このまま価格上昇が続くと1ℓ 200円台にまで跳ね上がる可能性もありそうだと我々消費者としては何とか安価なガソリンスタンドを求めているものでした。最近では、価格が下がり160円台付近でしばらくは動向しそうです。

さて、このガソリン価格高騰に伴い何故か売れ行き好調なのは「ハイブリッド車」なのです。発電機（電機モーター）で駆動することが出来るのでガソリンをほとんど使用せず燃費を抑えることが出来る、そんな理由でハイブリッド車を購入する人が増えているというのです。もちろん、車の価格は通常のガソリン車と比較すると値段は上ですが将来を見据えて購入する人が増えているということでしょうか？

京都議定書などでもCO₂削減が叫ばれている中ですので、ガソリン価格高騰＝ガソリン消費量減少となれば地球温暖化に歯止めをかける良い起爆剤になるとおもいますが。

しかし、自分の今の生活を見ても車が無い／使えないという交通手段は考えられませんが・・・ね。

④“トキ”佐渡の大空へ羽ばたく！

以前ISO14001Newsでも取り上げたことのあるトキの話です。

国内産が絶滅したトキを野生復帰させるため、新潟県佐渡市の佐渡トキ保護センターは9月25日、中国産から人工繁殖させたトキ10羽を同センター近くの水田地帯で初めて試験放鳥しました。

残っていた野生の5羽を全鳥捕獲した1981年以来、27年ぶりに佐渡の大空に羽を広げた。

江戸時代には全国に生息したトキは、乱獲や環境悪化などから激減。佐渡は国内産トキの生息地だったが、全鳥捕獲後の人工繁殖も功を奏さず、2003年にメスの「キン」が36歳（人間の約百歳に相当）で死に、野生のトキは絶えた。一方、中国から贈られたつがいのトキを大型ケージの中で飼育し、人工ふ化に成功。現在は122羽にまで増えています。

9月25日の放鳥式典には来賓として、秋篠宮ご夫妻、崔天凱駐日中国大使らが出席。地元で長年にわたってトキの餌場づくりや、生息の研究などに尽力した関係者、地元小学生らが、1羽ずつ入った杉製の小箱を一齐に開いてトキを放しました。

野生化したトキたちが各地で群れを成して大空を羽ばたいている姿が毎日見られる日が来ると良いですね。



4. 2007年度 内部環境監査 総括

2月12日～14日にかけて、内部環境監査を実施しました。前年度と同様に各部署1時間単位で監査を行い、内部監査チームも部署単位でリーダーを決めて監査を行いました。

2007年度は、指摘事項としては総数で19件有りましたが全てC指摘(要改善事項)でした。

特に目立っているのは、運用開始から数年が経過しているのにも関わらず文書管理の点で指摘されることが多いと感じます。記録した書類の管理はもとより、日頃の点検や排出を記録する“くせ”を付けましょう。

内部監査員も初年度から数えて8回目の内部監査となり、監査員からの指摘も鋭いものが見られるようになりました。また、サーベイランス審査時に審査員から言われましたが、記録の有無の確認(監査)ばかりではなく記録から派生した実施状況の有効性も確認するとよりよい監査になると言われています。

次年度は、各部署、内部監査員も実施・実行したことについて有効性(目的にどの程度到達・達成したのか)の確認をお願いします。

5. 第5回サーベイランス審査 総括

5月26日～27日に審査登録期間であるJICQAにより、第5回サーベイランス審査が実施されました。

従来は“定期”と呼称していたものが“サーベイランス”と呼称を変えたようです。

さらに、被審査対象は不備がある場合は指摘されるばかりでしたが、今回から良い実施事項(実績)に対しては「Good Point」がいただけるようになりました。審査側から出される書類も“指摘事項”から“観察事項”に変わっています。

今回は6部門が審査され、ISO14001認証取得以降初めて内部監査チームが審査対象となりました。初めてということもあり、内部監査チームの面々も多少とまどっていましたが、いざ審査が始まると審査員への対応も良く行っていました。

内部監査チームへの観察事項としては、記録の確認ばかりではなく、教育訓練や内部コミュニケーションなどが適正に行われたことを確認することによって更にマネジメントシステムの有効性が高まると言われました。

今回は「Good Point」事例として、製造課でのラベル印刷ズレ対策の取り組みが評価されました。現状分析からはじまり、PDCAがうまく廻されているというお褒めの言葉を頂きました。(良い事例は3件頂きました)

次回審査は、2009年5月21日～22日に内定しています。

6. 北京オリンピックと環境問題

8月8日に開幕した北京オリンピックは、中国の威信を懸けた一大国家事業として開催されました。

その一方ではオリンピックのための施設や道路建設などで近郊の森林や物資などを使用して、森林消失、砂漠化や大気汚染、果ては廃棄物処理などで環境に大きな変化を与えたとして問題となりました。

オリンピックに参加する選手も、現地入りを遅らせて日本等の近隣国で最終調整して環境問題や衛生問題が懸念されている中国への滞在期間を少しでも短くしたり、不参加を表明する選手もいました。

そんな中においても、世界新や五輪新の好記録が続出したオリンピックともなり、中国4000年の歴史と不思議さ漂う大会となりました。

日本はメダル数こそ少なかったのですが、印象に残っているといえば競泳の北島、女子ソフトボールなど金メダルを獲った選手もですが、メダルを獲った後でフィーバー状態だったフェンシング。そして、なんと言っても陸上短距離で日本に80年ぶりのメダルをもたらせた男子100m×4リレーではないでしょうか。オリンピックラストランとなった朝原。初参加の塚原。不動のリレーメンバー末續、高平。この4人が力を合わせ勝ち取った銅メダルは、字の如し。「金と同じ」価値がある。

◆TDK千曲川硬式野球部が、都市対抗野球出場。日精電機も有志を募り、応援に行く！

8月31日(日)地元企業でもあり、佐久市工場団地親和会としても親交のあるTDK千曲川の硬式野球部が、東京ドームで行われた第79回都市対抗野球に北信越地区代表として3年ぶり2回目の出場を果たしました。日精電機も従業員から有志を募り、佐久市民応援団の一員として大勢が応援に行きました。

対戦相手の富士重工業(太田市)に対して、結果1-6と惜しくも敗れましたが、応援団の熱い声援が選手の活躍に一層拍車をかけたと思います。

対戦した富士重工業はベスト4まで進出しました。

◆次号◆ 通巻12号 2009年1月発行予定

編集後記

◆今回は充電期間が長かったせいかわ何を記事にしたらいいのか分からず紙面編集も前回まで8ページで編集でしたが、今回は4ページで力尽きました。それを考えますと、毎日刊行されている新聞はすごいものだなと感心してしまいます。次回は予定した発行日に刊行できるように頑張ります！！

企画・作成・編集：武者 弘文(副環境管理責任者)

発行責任者：中山 俊明(環境管理責任者)

発行：日精電機株式会社 ISO14001 環境管理事務局